

世界コマ大戦 ～準優勝チーム編～ 日本の製造業を直撃した“インドネシア・タイフーン”の衝撃

2015.03.18

👍 87 ツイート 0

いいね!

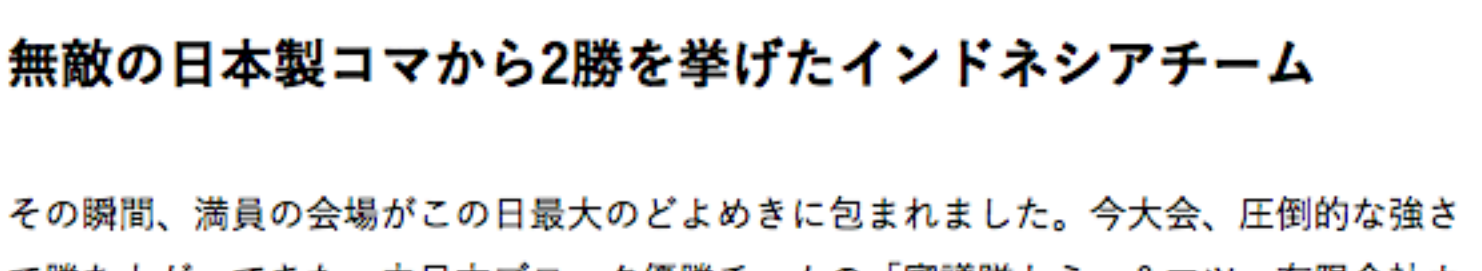
G+

「日本のものづくりの力を世界に発信する」——このようなビジョンのもと、日本国内の中小製造業が自作のコマで競う「コマ大戦」。2015年2月に行われた3度目の開催では、世界に門戸を開いた「世界コマ大戦」となり、国際交流基金アジアセンターも助成という形でサポートしました。最終決戦の舞台となった横浜に集結したのは、各国の精鋭たち。初の世界大会では、日本のものづくりの技術を脅かす、インドネシア勢の猛烈なタイフーンが吹き荒れました。

「コマ大戦」は、日本の製造業を元気にする目的で、2012年2月にスタート。中小の製造業がその技術を注ぎ込んだコマを持ち寄り、けんかコマをベースにしたシンプルルール（トーナメント制。相手のコマより長く回り続けた方が勝ち。先に止まる、もしくは土俵の外に出たら負け。2連勝したチームが勝ち、など）のもとで熱い戦いを繰り広げます。2013年に行われた第2回大会では、その単純明快なルールと口コミで一気に注目が高まり、わずか1年で参加チームが約10倍にまで膨れ上がりました。「世界コマ大戦」はそうした勢いに乗って、約2年の準備期間を経て実現。アジア諸国やアメリカなど6カ国が参戦する、まさにワールドクラスの大会となりました。



参加チームが勢ぞろいした開会式



参加チームのコマが集められます

無敵の日本製コマから2勝を挙げたインドネシアチーム

その瞬間、満員の会場がこの日最大のどよめきに包まれました。今大会、圧倒的な強さで勝ち上がってきた、中日本ブロック優勝チームの「審議隊トミー&マツ〜有限会社カジミツ〜」（以下、カジミツ）と、インドネシア準優勝チームの「サントソ・テクニド・インドネシア」（以下、STI）による決勝戦。1戦目でカジミツのコマが勝利した後の2戦目でした。カジミツのコマは、平均よりも重い200g。電池とモーターが内蔵され、初戦からその圧倒的な強さで他のコマを寄せ付けません。この無敵のコマが、STIのコマとぶつかり合い、パタリと倒れたのです。会場に衝撃が走りました。両者は白熱した一進一退の攻防を見せ、3戦目はカジミツの勝利。4戦目は、激しいぶつかり合いの末にSTIが勝利するも……5戦目、6戦目でカジミツが2連勝を決め、優勝。STIの準優勝が決まりました。

コマという概念を打ち破る斬新なコマで優勝したカジミツと、無双の相手とあと一歩まで追いつめたSTIには惜しみない拍手が送られ、約6時間に及ぶ戦いは終わりました。



場内を沸かせた決勝戦



カジミツのコマ（左）STIのコマ（右）

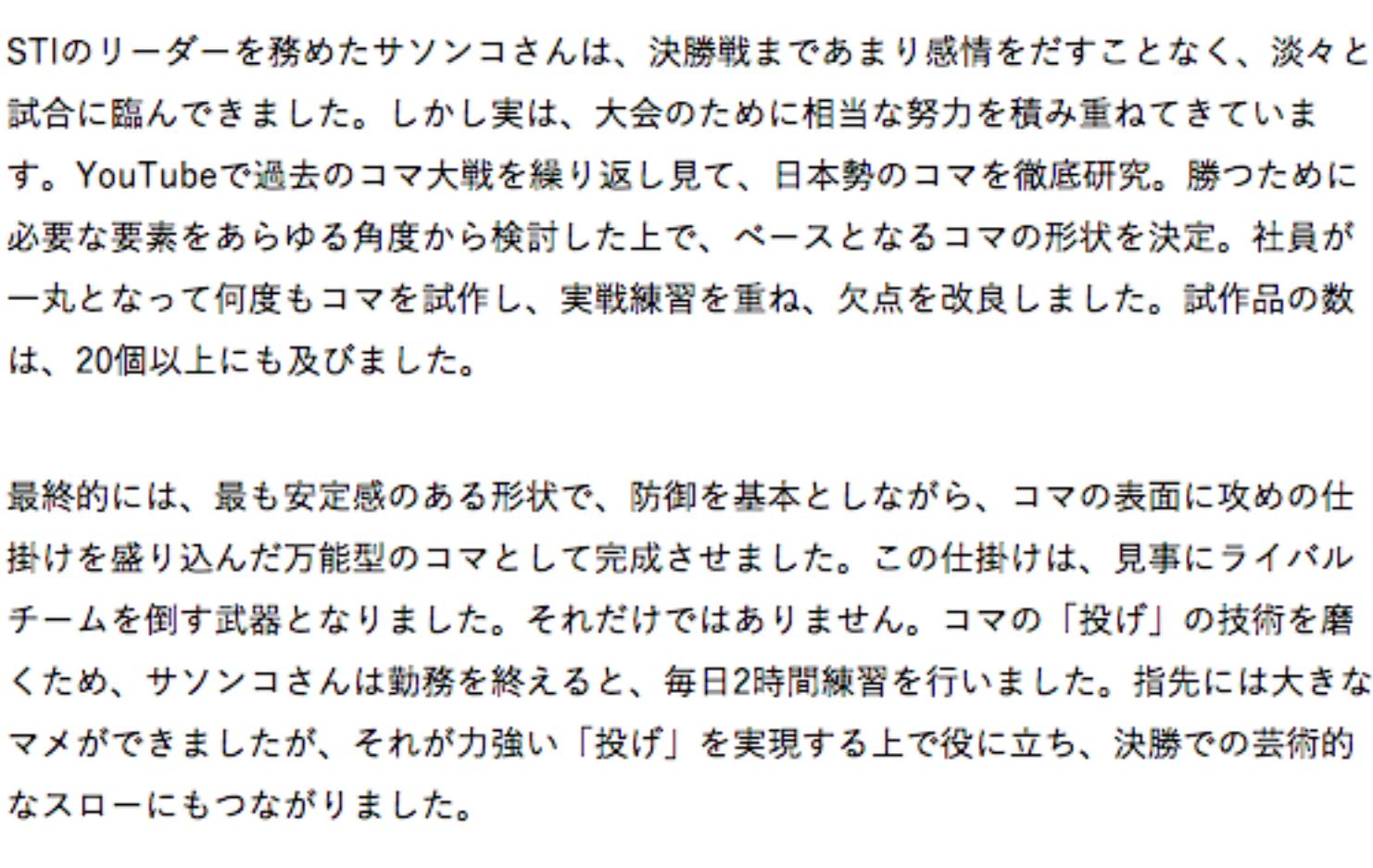


優勝したカジミツと準優勝したインドネシアのSTI

ノーマークのインドネシア勢の躍進が突き付けた衝撃

日本の製造業の現状に危機感を持った関係者の想いに端を発してスタートした「コマ大戦」は、各企業もその想いに応じて持てる技術を結集してこどと、過去2回は大成も収めませんでした。初の世界大会となった今大会はそういった意味で、日本勢にとっては絶対に負けられない、プライドをかけた舞台となりました。それだけに成長著しい東南アジア諸国と言えど、インドネシアチームの下馬評は決して高くありませんでした。

思いがけないSTIの準優勝は、国内関係者に大きな驚きを与えました。優勝したカジミツも「インドネシアは本当に強かった。日本の底力を見ることができ、まずは一安心です」と、その強さをたたえました。



対戦後、互いをたたえ合う両チーム

ポーカフェースに隠された努力

STIのリーダーを務めたサンソコさんは、決勝戦まであまり感情をだすことなく、淡々と試合に臨んできました。しかし実は、大会のために相当な努力を積み重ねてきています。YouTubeで過去のコマ大戦を繰り返し見て、日本勢のコマを徹底研究。勝つために必要な要素をあらゆる角度から検討した上で、ベースとなるコマの形状を決定。社員が一丸となって何度もコマを試作し、実戦練習を重ね、欠点を改良しました。試作品の数は、20個以上にも及びました。

最終的には、最も安定感のある形状で、防御を基本としながら、コマの表面に攻めの仕掛けを盛り込んだ万能型のコマとして完成させました。この仕掛けは、見事にライバルチームを倒す武器となりました。それだけではありません。コマの「投げ」の技術を磨くため、サンソコさんは勤務を終え、毎日2時間練習を行いました。指先には大きなマメができましたが、それが力強い「投げ」を実現する上で役に立ち、決勝での芸術的なスローにもつながりました。

「私は今の仕事について15年になります。もともと加工することが大好きでこの会社に就職しました。だから、試作品を作るのは苦ではなく、とても楽しかったです。今回の出場の目的はスキルの向上と他国のスキルの研究などでしたが、ものづくりに携わる技術者として、準優勝という結果にはとても満足しています」

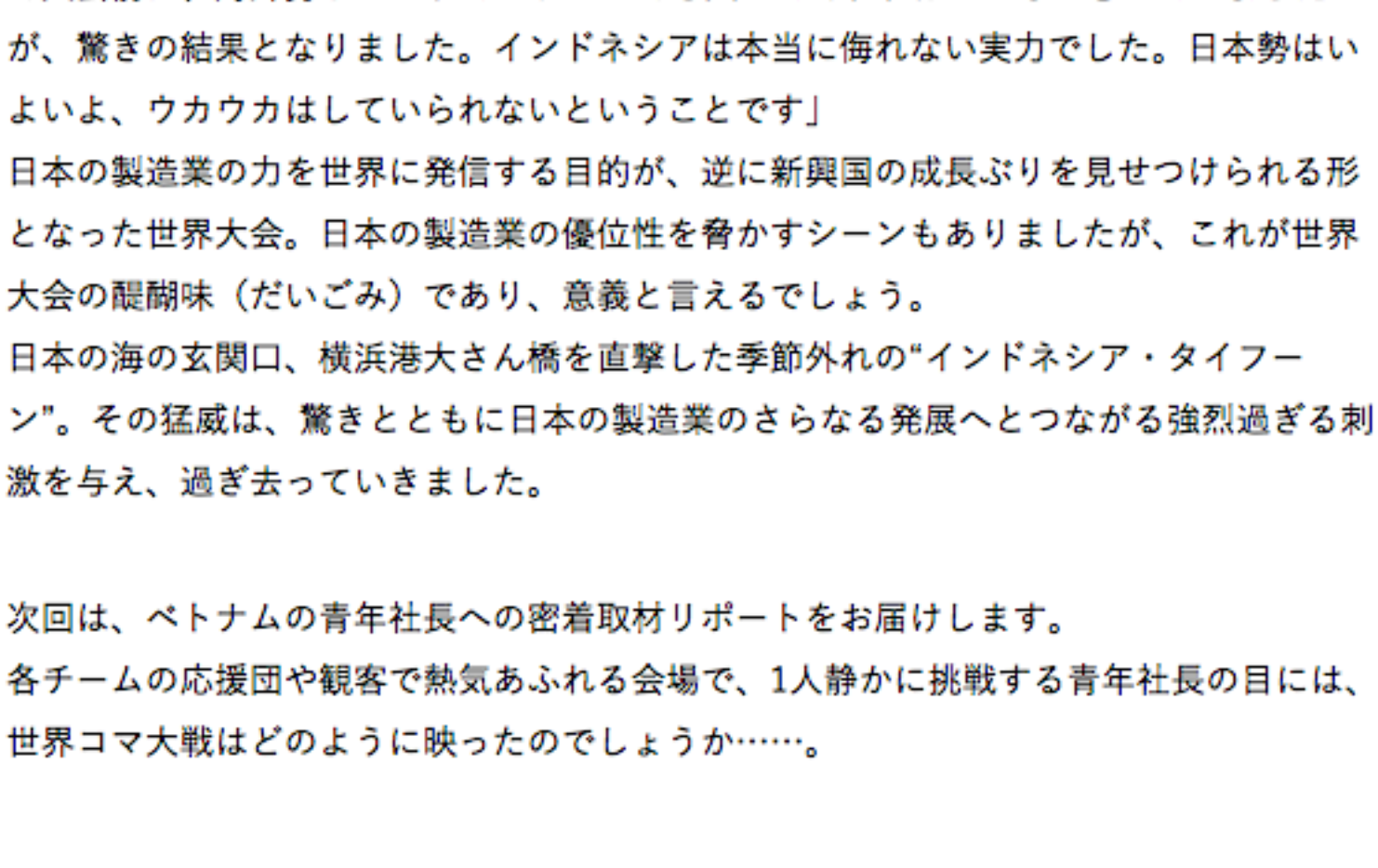
サンソコさんは充実の表情で大会を振り返りました。



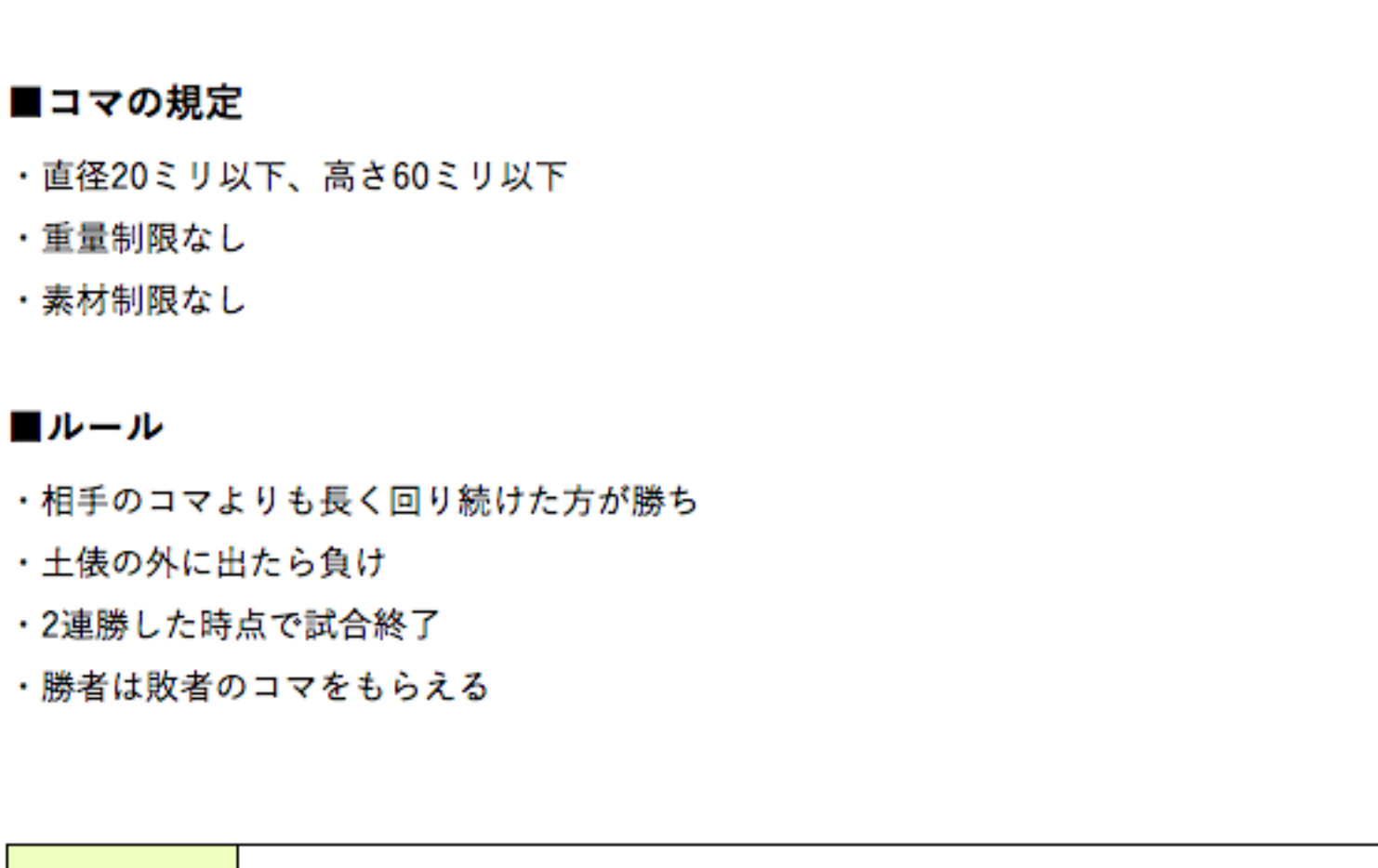
淡々と試合に臨むサンソコさん

日本と世界の製造業が刺激し合い、さらなる発展へ

今大会、日本勢のコマは、過去2大会を経て確実に進化していました。より高次元な技術が採用され、戦闘力がアップしているように思えました。しかし、鍛錬していたのは日本勢だけではありませんでした。STIは、インドネシア予選の準優勝チームです。予選で優勝したアストム・スピニング・トップ・チームも難なく初戦を突破し、2回戦は失投による無念の敗退でした。インドネシア勢の大活躍は、まぐれでも何でもなし、真正正銘の実力なのです。



アストム・スピニング・トップ・チームの戦いの様子



表彰されるインドネシアのSTIチーム

全日本製造業コマ大戦協会の会長、緑川賢司氏は大会を総評し、次のように話しました。「大会前は、海外勢がベスト3に1チームでも入ってくれば良いなと思っていましたが、驚きの結果となりました。インドネシアは本当に侮れない実力でした。日本勢は、いよいよ、ウカウカはしてられないということです」

日本の製造業の力を世界に発信する目的が、逆に新興国の成長ぶりを見せつけられる形となった世界大会。日本の製造業の優位性を脅かすシーンもありましたが、これが世界大会の醍醐味（だいごみ）であり、意義と言えるでしょう。

日本の海の玄関口、横浜港大さん橋を直撃した季節外れの「インドネシア・タイフーン」。その猛威は、驚きとともに日本の製造業のさらなる発展へとつながる強烈過ぎる刺激を与え、過ぎ去ってしまいました。

次回は、ベトナムの青年社長への密着取材レポートをお届けします。各チームの応援団や観客で熱気あふれる会場で、1人静かに挑戦する青年社長の目には、世界コマ大戦はどのように映ったのでしょうか……。

【大会ルール】

■コマの規定

- ・直径20ミリ以下、高さ60ミリ以下
- ・重量制限なし
- ・素材制限なし

■ルール

- ・相手のコマよりも長く回り続けた方が勝ち
- ・土俵の外に出たら負け
- ・2連勝した時点で試合終了
- ・勝者は敗者のコマをもらえる

企画名称	全日本製造業 世界コマ大戦2015
日時	2015年2月15日10:00~18:00
会場	横浜港大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋ホール
主催	全日本製造業コマ大戦世界大会実行委員会
助成	国際交流基金 アジアセンター
URL	http://www.komataisen.com/

👍 87 ツイート 0

いいね!

G+